

神奈川入賞ならず

都道府県対抗男子駅伝

第24回全国都道府県対抗男子駅伝は20日、広島市平和記念公園前発着の7区間、48キロで行われ、神奈川は2時間21分31秒



16人抜きの快走で一時2位までチームを押し上げた館沢
—第2中継所

監督「価値ある10位」

の10位で、7位だった前差の18位でたすきを受け、たすきを渡すに間に合った。4区以降の16人を抜く区間2位の快走でチームは一時2位まで上がった。4区以降の16人を抜く区間2位の快走でチームは一時2位まで上がった。4区以降の16人を抜く区間2位の快走でチームは一時2位まで上がった。

たすきをつないだが、最終7区で失速し順位を落とした。福島の2時間19分43秒を果した。福島は最終7区で東京箱根間往復大駅伝(箱根駅伝)で東洋大の往路優勝に貢献した相沢が25秒差を逆転し、リードをのけてゴールした。3区で塩尻(順大)が区間賞の快走を見せるなど、2位に入った。

【神奈川選手個人区間記録】

区間	選手	記録	順位
1区	児玉 真輝	20分42秒	13位
2区	館沢 隆	9分11秒	25位
3区	石川 力	24分39秒	2位
4区	内田 隼	25分16秒	9位
5区	湯野川 越	8分55秒	15位
6区	越川 堅	38分51秒	14位
7区			30位

館沢 16人抜き

攻めの走りエース躍動

トップと10秒差の13位でつなぎ、3区館沢で首位に肉薄。4区方石(同)、5区内田(法政高)が持つ力を出し切り、6区湯野川(綾北中)も区間14位の力走を見せ、最終7区へ継いだ。理想通りの展開で前回7位を上回る過去最高成績は目前だった。

それだけに期待を背負った越川(神奈川大)の失速だけは残念だった。互いが補い合い、神奈川が全国で戦えることを証明した。価値ある10位と加藤監督(56)はねぎらった。

「みんな協力的で、本当にいいチームだった」と振り返った。1500日の日本選手は今月末に渡米し、約3カ月の武者修に備えるという。「駅伝の強

行で東京五輪を目指したトレーニングを本格化していく。「今回の悔しさを踏まえ、入賞常連の強い神奈川になつてくれれば」との思いは強烈なインパクトとともに、次世代に伝わった。

(織田 匠、写真も)



2年連続の入賞は逃したが、上位争いを演じて総合力を示した神奈川選手団

カ石「諦めず全力で」
○：鎌倉学園高の力石が4区で区間9位の快走。1週間前に左足を故障し不安を抱えていたが「諦めず全力で突っ込んだ」と本領を発揮した。初出場した年末の全国高

やるべきことできた
1区・児玉(鎌倉学園高)1位から10秒差で渡せ、最低限のやるべきことはできた。チームは大学生のおかげで、雰囲気もすくよくよかった。

粘りが足りなかった
6区・湯野川(綾北中)全国大会は初めてで、ラスト2区の粘りが足りなかった。全国レベルの選手になれるよう頑張りたい。

て、25秒差をひっくり返した。群馬は3区と6区で区間賞と快走したが、アンカ1の牧が失速して2位。長野は堅実な走り、3位に入った。連覇を狙った埼玉は序盤の出遅れが響いた。

越川、失速「ごめん」
○：アンカー越川(神奈川大)は入賞圏外の10位でフィニッシュ。ゴール後は

メンバーに「ごめん」と声を掛け、肩を落とした。4位でたすきを受けたが、トップと36秒差、8位まで12秒差という大混戦。激しい入賞争いから徐々に後退し、しつかり調整はしてきたが、まだまだ力不足だった」と反省した。